

デイ――
オナとの日常
最終篇――



その日はちょうど晴れて
気持ちの良い日でした



しかし誰も
予想していなかった

...俺は...突然...



すべてはドウラフが結婚に
ついて言及した後に始まった...

肅
静

で？

どう思う？



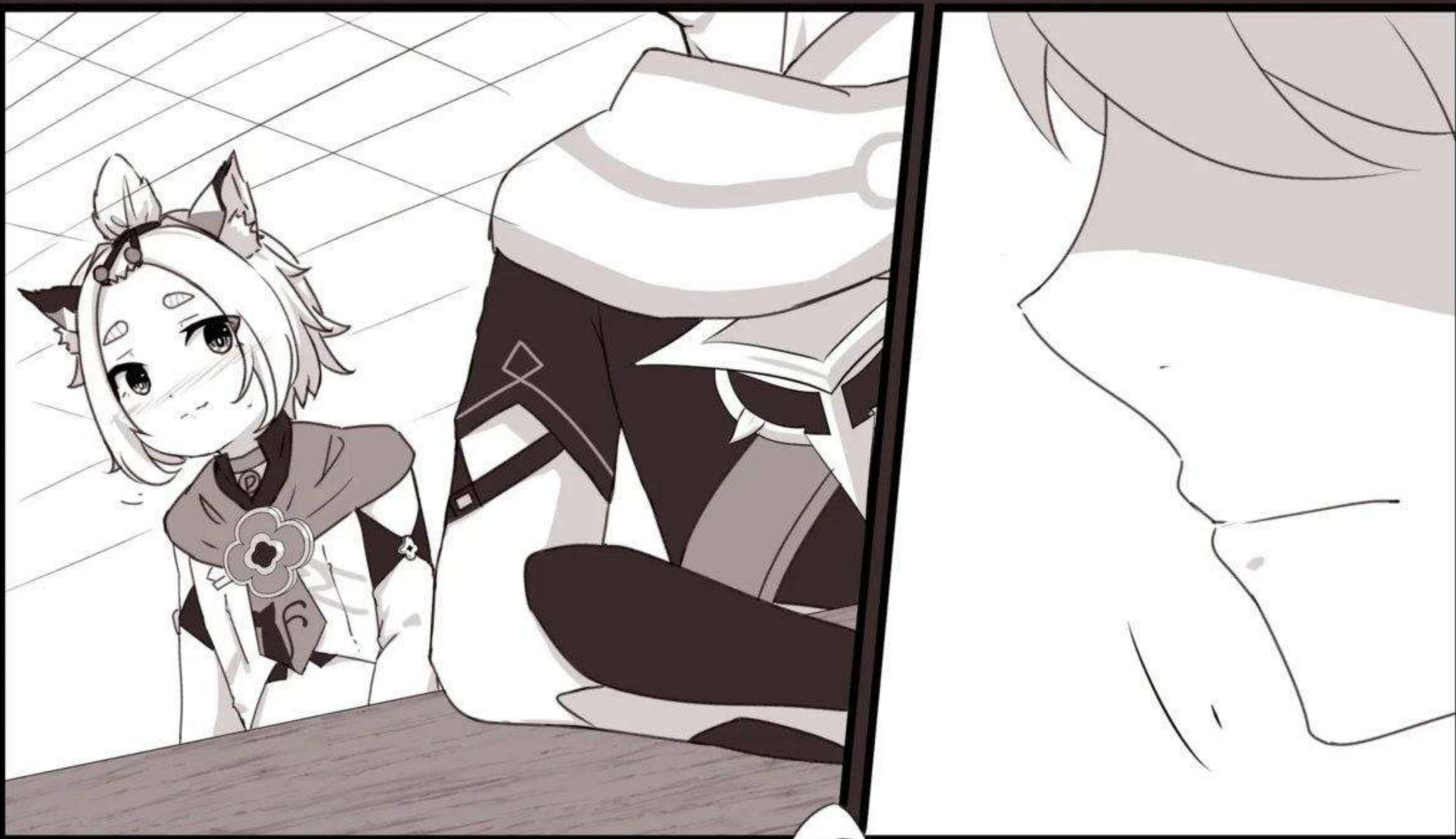


一つだけ聞く



ディオナお，
好きですか？





はい，初めて会った
時からずっとディオナ
に夢中です

だからあなたの娘を
私にください，お父さん



ちよっ！ちよっと
待ってください！——



PA!

ふ、～――

あははは、まさか君のお父さんが出て行くとは思わなかった

さてどうすればいい...

ディオナ？ディオナちゃん大丈夫？





大丈夫じゃない!!

バカニャー
!!——

お父さんもバカ!!
なぜこの時期にこの
話題を持ち出すのか!

爪!

痛い、猫の爪が
痛いです...

爪!

爪!

それになぜ彼の
言うことに真剣
に答えたのです
かニャー?!
しかも私の父を
お父さんと呼んだ
!!バカ!二人と
もバカ!!
おバカ!!!!



しかし俺が言った
ことは本当です!!

考えたことは
ないのディオナ?

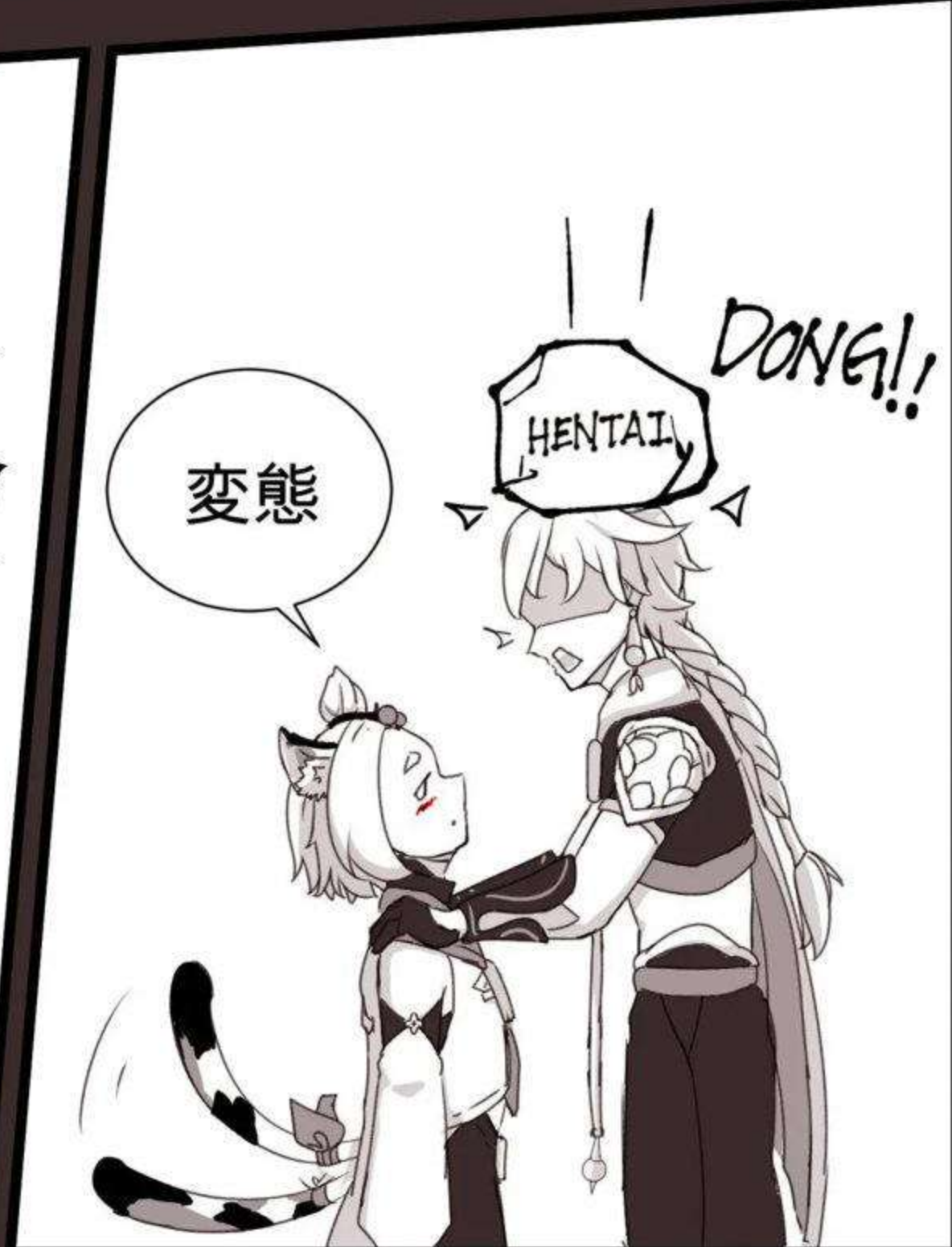


考えたこと
じゃ何も、
突然すぎる!

それに、そんな若い
年齢で結婚するの
は早すぎる!...

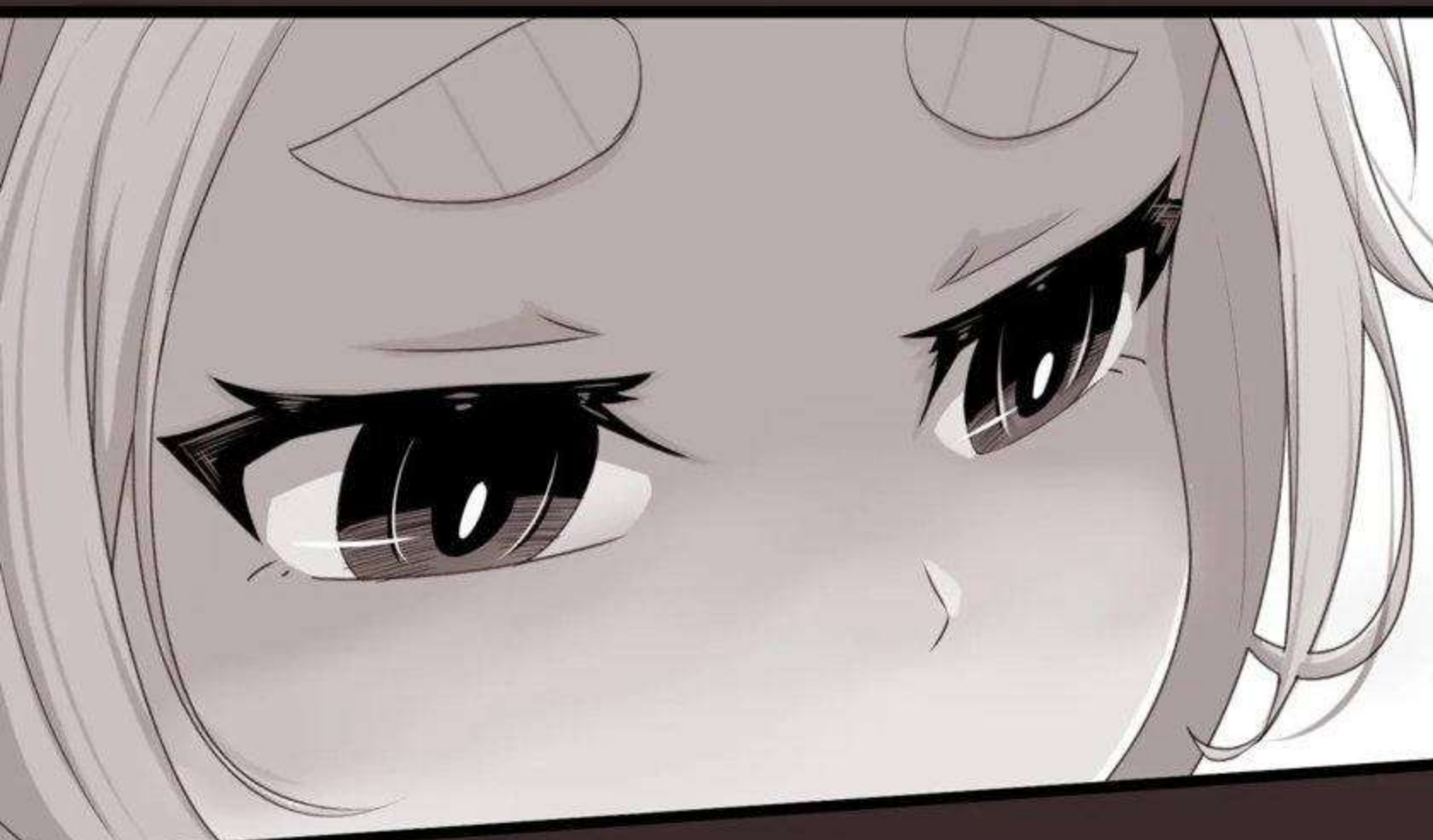


いや、まさに
俺が望んでいた
ものです!





でも...



妹を探している
んじゃないの？



ディオナ...



それなら俺と
一緒に探さないか？



そうすれば、退屈
なときに一緒にいて、
座って話すことがで
きる。ダメ？



"ねーディオナちゃん、
大きくなったら結婚し
たいと思うことは
ありますか？"

結婚？ う...
そう思う？ ...

"じゃあどんな男
の子が好きですか？"

う...えと...
そうだ、私ね...

いつも一緒に
にいられる人



そして、今あなたと
一緒にいるように、
こやって一緒に話
をする

“はは、まさにディオナ
が考えていることです、
ならば...”

“狩人の娘を祝福し、
成長の証と餞別の印に、
この贈り物を与えます。

あなたの杯に永久に美酒が溢れ、
千年の雪をも溶かす泉となるように...”



あの...
ディオナちゃん？



ふん、冒険するときい
つも一緒じゃないの？

あはは...
ですよね...



でも
嫌いじゃないよ



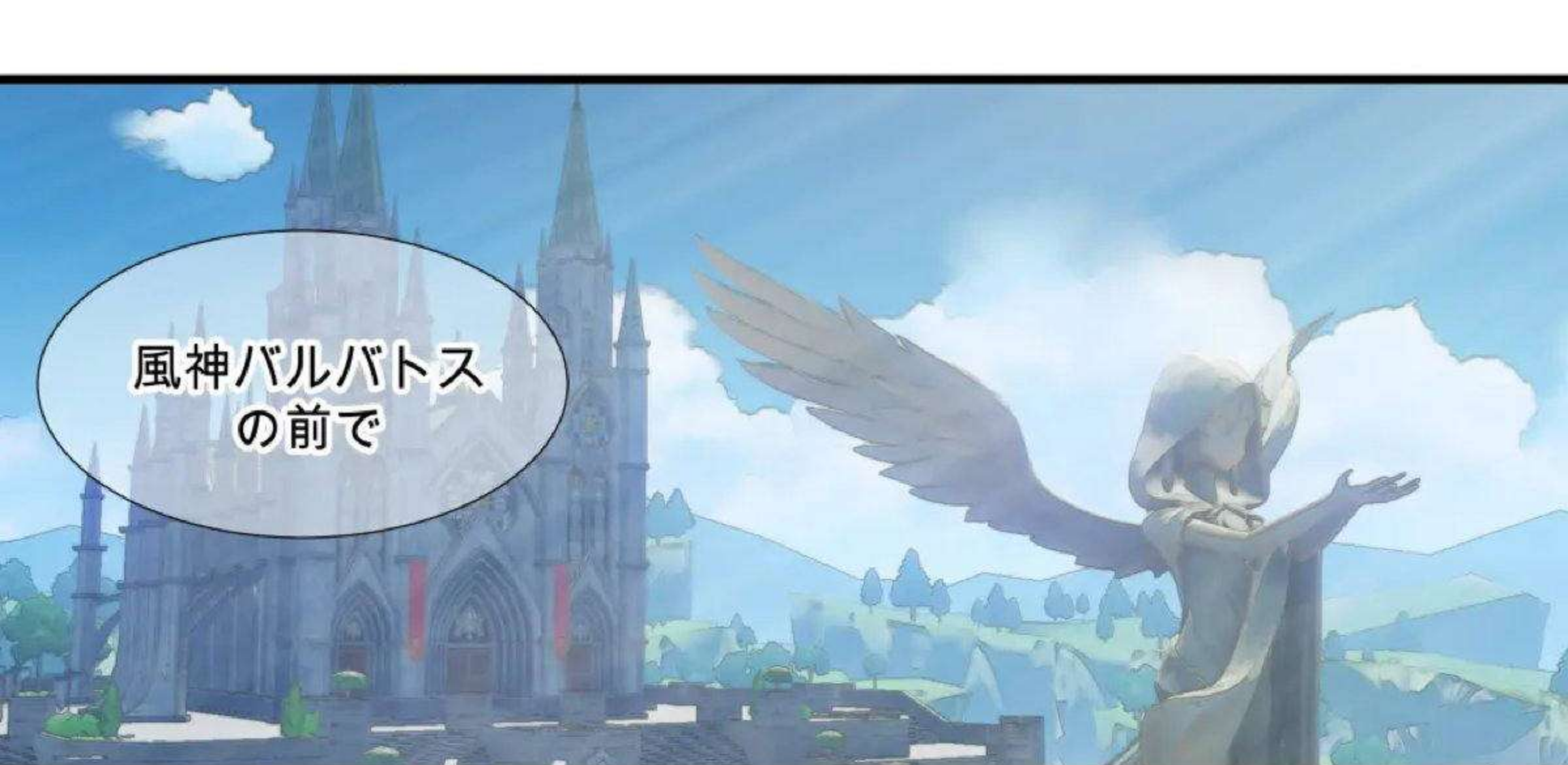
喜んで

その健やかなるときも、
病めるときも、

喜びのときも、
悲しみのときも、

富めるときも、
貧しいときも、

これを愛し、これを敬い、
これを慰め、これを助け、
その命ある限り、



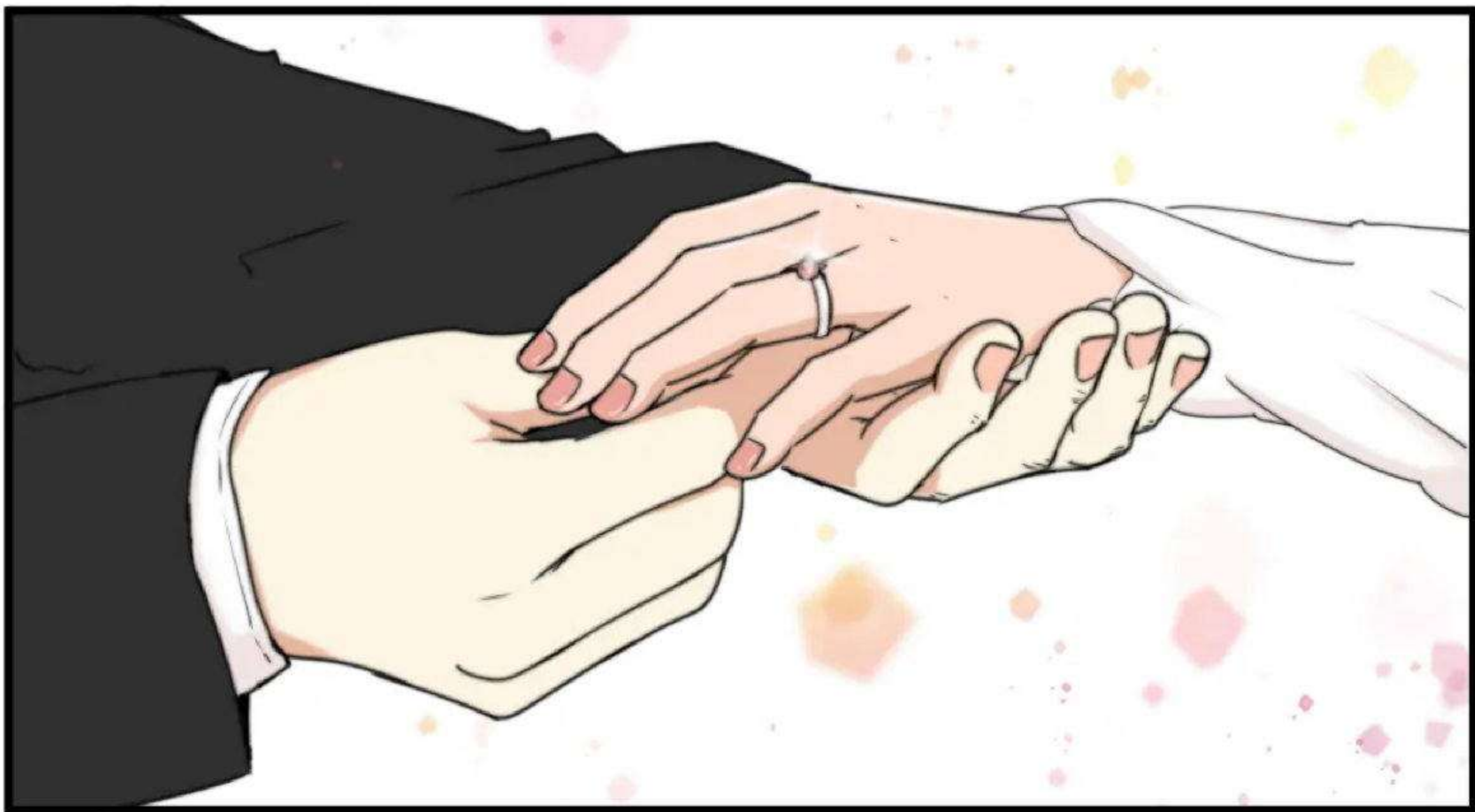
風神バルバトスの
前で



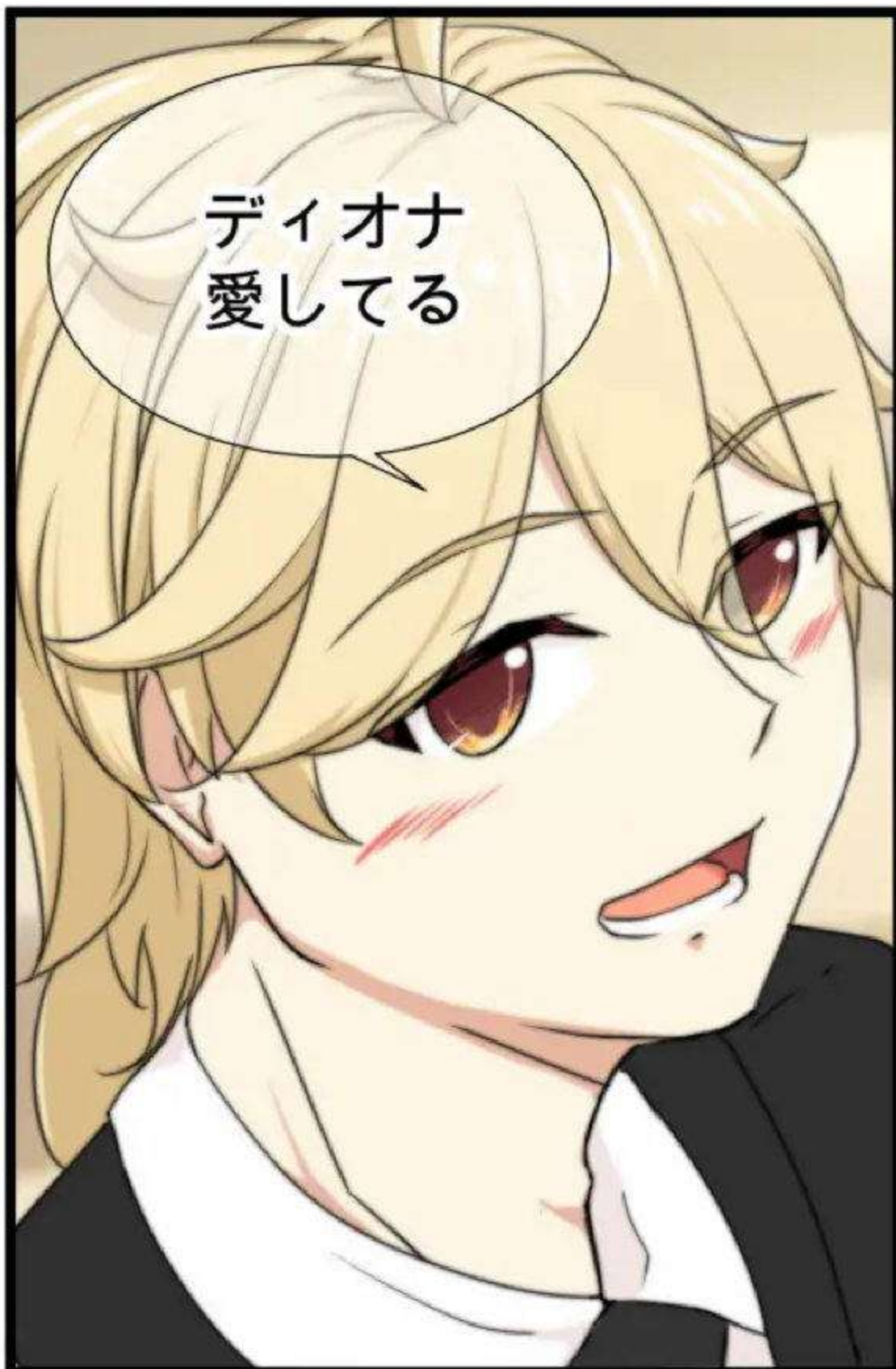
真心を尽くすこと
を誓いますか？







ディオナ
愛してる



私も愛して
いるよ，空





風神のご加護が
あらんことを





FIN





うん♡ うん♡

うん

うん

吸う~ 吸う~



45 minute +



1h 15 minute +



2 hour +



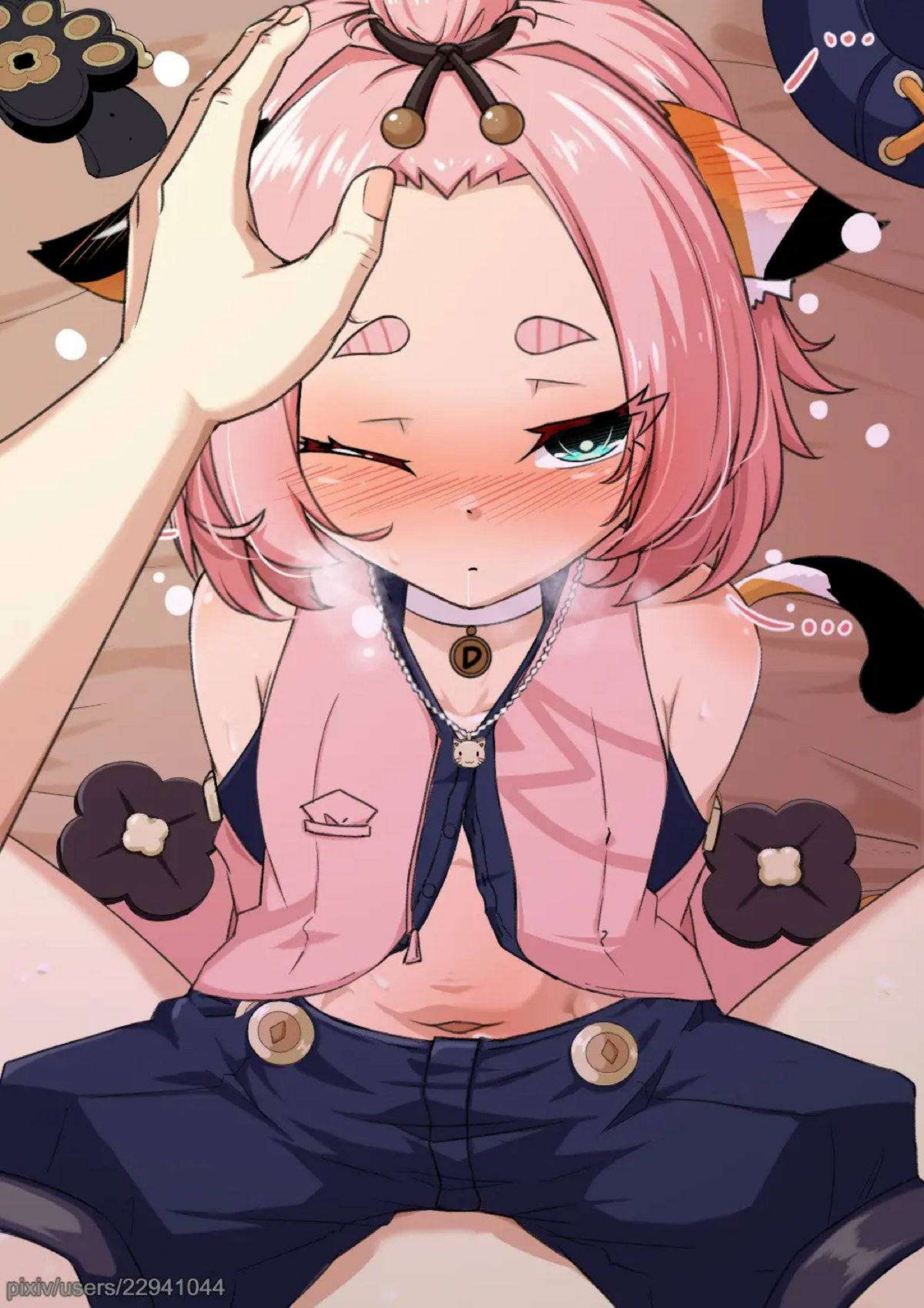










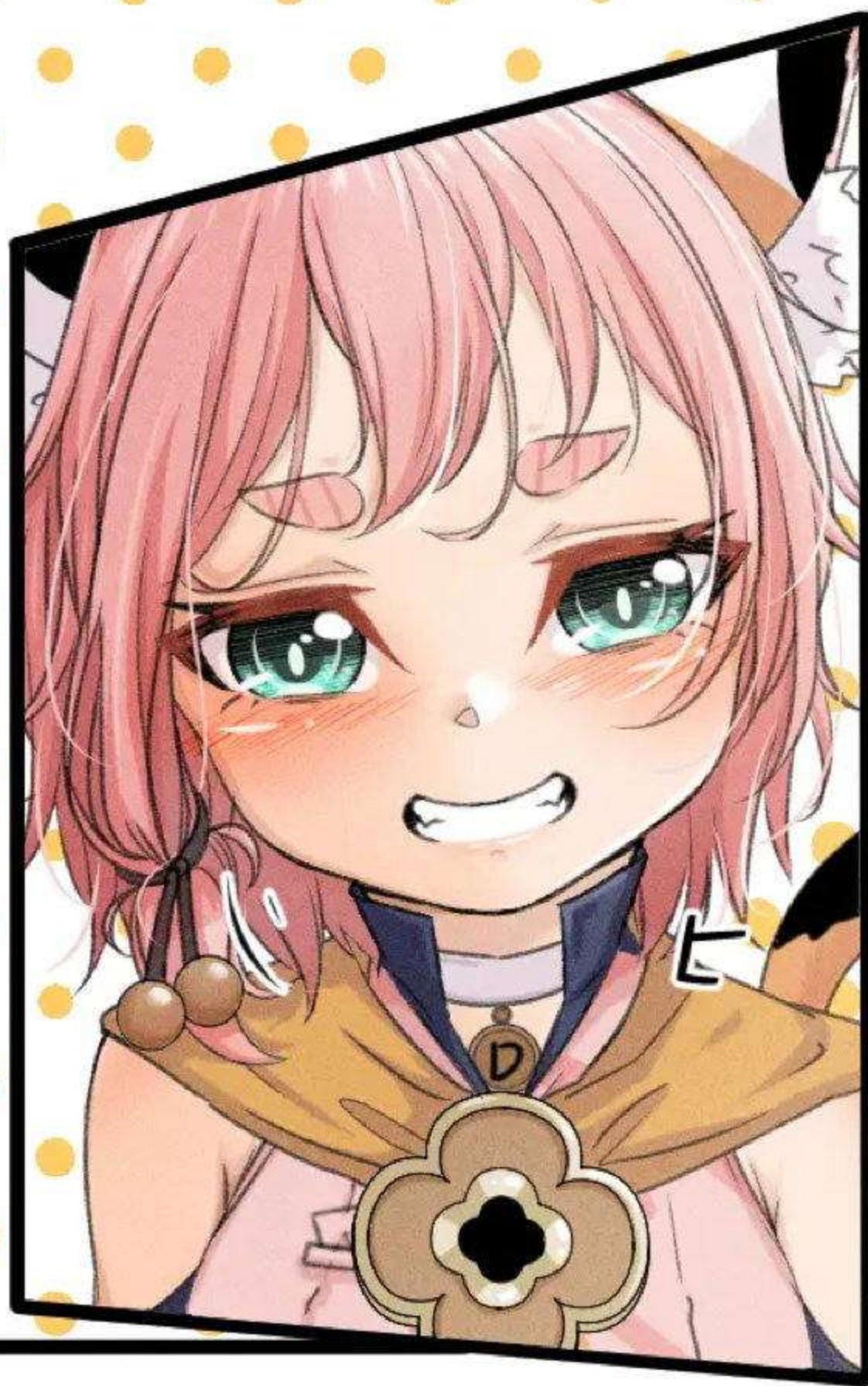






数ヶ月後——

ただいま
ディオナ
ちゃん~



お...おかえり、最初に言
っておきますがあなたの
帰りを待っているわけでは
ないよ、だ...だんな...
たびびと!!!



ディオナとの日常は
正式に終了しました、
皆様のご視聴いただき
ありがとうございました~